

大学病院の緩和ケアを考える会

ニュース・レター Vol. 19 No. 2

平成 26 年 12 月 1 日発行

大学病院の緩和ケアを考える会 事務局

〒142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8 昭和大学医学部 医学教育推進室

E-mail: jimukyoku@da-kanwa.org http://www.da-kanwa.org

編集責任者 高宮有介

- ご挨拶
- 第 20 回総会・研究会開催を終えて
- 準世話人リレー連載：
大学病院の緩和ケアを考える
- 第 1 回 医学生の緩和ケア教育のための
授業実践大会に参加して
- 大学病院フォーラム開催報告
- クールダウン エッセイ

ご挨拶

今年、7月にオーストラリアのモナシュ大学医学部、9月にモントリオールの McGill 大学医学部での研修の機会がありました。Whole Person Care、マインドフルネスを、医学生の教育に必修化しているというので、学びに行きました。Whole Person Care の概念は、「医師は、Curing（治癒）だけではなく、Healing（癒し）も提供する」ことにあります。そのためには、マインドフルネス、ありのままに患者さんと、さらに自分自身に向き合うことを強調しています。患者さん・ご家族の心のケアも大切ですが、そこに向き合う医療者の心のセルフケアもキーワードです。出来る事、出来ない事を知り、出来ない時にも自分を承認できることが大切です。

McGill 大学医学部での教育ですが、「治癒できない患者にも、如何に向き合い、癒しを提供できる医師になるか」に正面がから向き合っていました。基本的には 2 つの面を重要視していました。それは、自分自身を見つめる機会と、それをフィードバックしてくれるメンターの存在です。詳しくは、雑誌「緩和ケア」11月号に、同行した土屋静馬先生が掲載しておりますので、ご覧下さい。

9月20日に、第20回の総会・研究会が、日本医科大学武蔵小杉病院の主催で、日本医科大学橘桜会館

第20回総会・研究会開催を終えて

日本医科大学緩和ケア科前教授中西一浩先生よりご紹介いただきましてから約1年半をかけて準備を進めてまいりました。研究会のテーマは現状で私たち

代表世話人 高宮 有介（昭和大学医学部医学教育推進室）

で開催されました。在宅緩和ケアのテーマに沿った多方面からの発表で、大変、盛り上がりました。武蔵小杉病院の病院長も全てに参加され、様々な要望に積極的に関わることを確約されていました。実りある会になったと思います。お骨折り頂いた赤羽世話人、藤原世話人、および日本医科大学のスタッフの方々、当会世話人の皆様に心から御礼申し上げます。今回は、20回記念ということで、会終了後に、代表の私がお



花を頂戴しました。サプライズの出来事で、大変、感動致しました。来年は、2015年9月19日（土）に、杏林大学が主催で開催します。キックオフ会が始まったところです。

また、10月18日に、日本財団ビルで、第1回医学生の緩和ケア教育のための授業実践大会～ワンポイント授業コンテスト、これが私の授業です！～を開催しました。この10年間は、授業の初心者が、模擬授業を作成し発表するというセミナーでしたが、今回は、ベテラン教員による授業が展開されました。お互いの授業を見聞きすることは、なかなか無いので貴重な機会となりました。熱血賞や、オリジナルで賞、心をつかんだで賞など、様々な賞をお贈りしました。来年も第2回を開催する予定です。

(写真の注：McGill 大学医学部の Hutchinson 先生と)

日本医科大学武蔵小杉病院 赤羽 日出男

自身が最も困難を感じている事を手掛けようと思い、「つなごう～大学病院と在宅緩和ケア」とさせて頂きました。在宅緩和ケアのお話をさせていただく時



に患者さんやご家族が「主治医もしくは病院に見捨てられた」と感じてしまう事がないようにするためには何が問題で、何が必要なのかに焦点を定める研究会を目指しました。これまでの研究会の進行次第

を踏襲しながら、それぞれの講演やワンポイント講座、シンポジウムが独立して完結していても研究会全体としてまるで一つのストーリーを成すかのようにまとまったものとする事ができたと思っております。これらのご講演をお引き受けいただいた演者・座長の皆様、ご相談させていただいた高宮先生をはじめ世話人会の皆様、ご支援いただいた製薬会社の皆様、運営を支えていただいたスタッフの皆さまのご尽力の賜物と心より御礼申し上げます。準備では特に、シンポジスト全員と7月3日の打ち合わせが重要でした。ここでの話し合いが研究会全体の流れを方向付ける上で決定的な役割を果たしたと感じています。また、外部からお招きしてご講演いただいた松井先生、山崎先生には事前に直接お話しさせていただく機会を賜りました。顔が見える、声が分かる密接な連携は今回の

テーマに結びつくものであり、準備においてもその効果が発揮されたものと考えます。

第20回という節目の研究会であり、サプライズとして高宮先生への花束贈呈はとても誇らしく心温まるものでした。ありがとうございました。

また、当番世話人の不手際のため多々、行き届かない点あり大変ご迷惑をおかけしました事、心よりお詫び申し上げます。開催場所と病院所在地に隔たりがございましたのは運営上の足枷となってしまいました。しかし、ご講演いただきました内容はどれも素晴らしく、示唆に富んで、明日からの診療に非常に役立つものを持ち帰れたと思っています。これは、ご参加いただいた方々以上に当院緩和ケアチームにとっても有意義なものとなったと感じています。

また、開会のご挨拶のみならず慰労会の最後までお付き合いくださいました武蔵小杉病院院長 黒川顕先生に深甚なる感謝を申し上げます。院長のみならず病院全体の緩和ケアへの理解の深まりが緩和ケアチームへの大きな後押しとなり、今後の活動の充実が展望されます。このような機会を与えて下さった世話人の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

☆準世話人リレー連載 大学病院における緩和ケアを考える☆

昭和大学薬剤部 阿部誠治

皆さんは、患者さん、その御家族、あるいは自分自身で満足いく「緩和ケア」というものを提供できていらっしゃるでしょうか。私は残念ながら「いいえ」と答えざるを得ません。施設でのハード面、ソフト面などいろいろ問題はあるでしょう。また、「満足いく緩和ケア」というのも個人差があると思います。特に大学病院においては、人の入れ替えが激しく、「じゃあ明日から緩和ケアチームを立ち上げて活動しましょう」といっても実行できる施設は限定されるでしょう。また、いざ緩和ケアチームを立ち上げて活動を始めても、時間的な制約、人員不足、主治医との連携など頭を悩ませる問題が山積みの人が多いのではないのでしょうか。そんな厳しい環境の中、日々皆さんの努力によって成り立っていることも数多くあると思います。患者さん、その御家族からの笑顔と感謝の言葉で救われますよね。それらは皆さんの財産でもあり、施設の財産ともなり得るはず。とかく、画期的な治療法や設備ばかりが取り沙汰されますが、皆さんの努力もあってこそその治療であり、医療現場なのだと考えます。まだまだ行政の協力も仰がなければならないですし、何より施設内での連携が重要になってきます。さらに在宅など外部との連携もより必要とされるで

しょう。これから迎える超高齢化社会に向けて、後輩の育成、環境整備などやらなければならないことは沢山ありますが、私も皆さんと同様、日々努力しなければと考えています。目標は高く、可能性を信じて。

さて私は現在、米国ニューヨーク州に留学中で間もなく半年を迎えようとしています。折角ですのでこちらの様子を簡単にご紹介したいと思います。まず、ご存じのように日本のライセンスでは米国の病院などで医療職として働くことができないため、大学の研究室で基礎研究を行っています。住居は幸い、大学から徒歩10分のアパートを用意していただきました。なお、家賃はニューヨーク価格です・・・バスと地下鉄を乗り継いで1時間位でマンハッタンに行ける場所ですので、週末は周辺の観光やスポーツ観戦にも行けます。気候は日本とよく似ており、夏はとても暑く、冬は時に氷点下になるほどの寒さです。また夏には日本というグリ



ラ豪雨のような雷を伴った激しいスコールがよく降ります。また他の州と違い、日本食が容易に手に入りやすいという点は恵まれていると思います。住めば都、と言いますが、私の場合、日本の文化や食事などを改

めて素晴らしいと実感できる良い機会だなと考えています。ただ、人とのコミュニケーションを考えると見習うべきところはありますね。機会があれば皆さんも是非訪れてみて下さい。



第2回大学病院フォーラム開催報告

「大学病院における緩和ケア病棟の役割」

横浜市立大学附属市民総合医療センター 化学療法・緩和ケア部 斎藤真理
(大学病院フォーラム企画担当者)

2014年6月20日、神戸で開催された日本緩和医療学会学術大会の中で、大学病院の緩和医療について検討するフォーラムが開催されました。今回のテーマは「大学病院における緩和ケア病棟の役割」

であり、5大学病院から演者が登壇し(藤田保健衛生大学/東口高志、東北大学/中保利通、島根大学/中谷俊彦、山梨大学/飯嶋哲也、久留米大学/松尾光代)、以下のような論点について検討されました。

- 1) 緩和ケア病棟でなければならないことは何か?
患者/家族の病状・心情に合わせた環境作り。看護体制の充実が可能。
多職種チームの密なコミュニケーション。
- 2) 緩和ケア病棟がなぜ大学病院に必要なのか?
卒前教育の場である。専門的緩和医療教育の場、臨床研究の場となるべきである。
- 3) 全国に多くある緩和ケア病棟の中で、大学病院の緩和ケア病棟には特徴があるのか?
がん患者を多く診療する大学病院では、自前で緩和ケア病棟を持つことが必須。
- 4) 緩和ケア病棟を持たない大学病院はどうしていったらよいのか?
緩和ケアチームと主治医・担当看護師との密なコミュニケーションを行う。
地域での大学病院の役割を明確化する。在宅療養体制との連続性を保つ。

各発表者から、病棟運営、教育・研修、臨床研究などに関する報告がなされたうえで、フロアとのディスカッションが展開されました。総勢109名と多くの大学病院関係者が集まり、情報交換の好機になったと考えられます。

しかし、90分という限られた時間内で、5施設の報告という制限があり、テーマを重点的に論じることができず、アウトカムが薄くなってしまった感が否め

ません。特に3)にある「大学病院の緩和ケア病棟の特徴」というのは、多施設の情報を集計して比較検討するか、あるいは医療機能評価のような第三者評価をもって初めて、明らかになるのではないかと考えられました。

大学病院が緩和医療の発展のなかで果たすべき役割を模索するためにも、来年はさらにテーマを絞った討論が期待されます。

第1回医学生の緩和ケア教育のための授業実践大会

～ワンポイント授業コンテストに参加して

昭和大学横浜市北部病院 総合内科(腫瘍) 土屋静馬

10月18日に日本財団ビルで開催された第1回ワンポイント授業コンテストに参加したので報告する。これまで『大学病院の緩和ケアを考える会』は10年にわたっていかに「緩和ケア」を医療系学部の学生に教えるかについて検討を続け、その結果を指導教員セミナーの開催を通して伝えてきたとのことである。今回はその「10年」という節目の年に、これまで指導教員セミナーを受けられた先生方も含め、実際に各大学でどのように授業が行われているかを、当日集まった8人の現役の医学生を前に20分間という限られた時間のなかで公開いただき、その評価を受けるという「前代未聞」の大会であった。

当日は全国5大学【自治医科大学(丹波嘉一郎先生)・弘前大学(佐藤哲観先生)・東邦大学(中村陽一先生)・山梨大学(飯嶋哲也先生)・東京医科歯科大学(三宅智先生)】から「ベテラン指導教員」が駆けつけ、それぞれ独自の授業が展開された。これらの授業には、たとえば「緩和ケアのいろは」「モルヒネの薬理学」「呼吸困難」「コミュニケーションスキル」「安楽死」といった事前に異なるテーマが与えられていたが、各先生方はそれぞれのテーマに応じた各論に触れながらも、緩和ケアのアイデアの根底にある「臨



床での医療における態度’や‘患者さんへの姿勢’などについてもうまく学生に伝えていた。特に印象的であったのが、それぞれ自らの臨床で経験されている患者さんの事例をうまく織り交ぜつつ、そこで起こる事象について学生はどのように考えているか、ひとつひとつ確認しながら、出来るだけ学生に「緩和ケア」を学ぶことへの内的な動機付けが行われることを意識しながら授業を展開していることであった。さらには、単なる個人的な体験談に留まらず、必要な事項に関してはきちんとエビデンスを提示し、医療者としてそれらの事象をどのように考えるべきかについても伝えていた。「緩和ケア」を学生に伝えるということは非常に難しいタスクであるが、この日に発表された各先

生方の授業におけるそうした細かい工夫の様子を実際に眼にすることができたことは、この日の大きな収穫であった。

大会の終盤には各参加学生から感想が述べられた。授業内容についてはいずれも好評で、各人の「緩和ケア」への学習意欲が刺激された様子であった。最後に大会コメンテーターの恒藤暁先生より「今日の授業で各先生方が話されていたように、医療者と患者さんとの関係性に基づき築かれる医療が各大学の緩和ケアの授業において展開され、現役の学生に伝わり、将来、医療界全体へと広がってほしい」とのコメントがなされ大会が締めくくられた。全体を通して、非常に充実した一日となった。



○●クールダウン～「鋸南町」ってご存じ?○●

東邦大学医療センター大橋病院 緩和ケアチーム 中村陽一

「ゴンズイに刺された人が来ます」との連絡で、「お湯を用意してね～」と言えたら、あなたもこの町の医療者として認められるかもしれない。暖めると痛みが緩和するのである。

房総半島・内房沿いの鋸南町、人口 9000 人の小さな漁業と農業の町である。東京の大学病院での勤務後、アクアラインを抜けてこの町の町立病院で月 3 回当直と翌日の日勤をしている。お世話になって、17 年

がたつ。数年前に高速道路がつながり、東京から 1 時間で来られるようになった。しかし、周りの観光地、マザー牧場や鴨川、館山、白浜などに隠れ、観光客が多くない町である。

「鋸山」。標高 329.4m の山である。江戸時代から石切場として採石され、靖国神社や早稲田大学の構内にも使用されている。鋸山が東京湾に落ち込むところを、明鐘岬といい、吉永小百合さんが 2014 年にモンテリオール映画祭で受賞した映画「ふしぎな岬の物語」の舞台となった喫茶店がある。遠く富士山や伊豆大島、三浦半島から東京までを一望できる絶景である。

「海水浴場」「海釣り」。病院から海水浴場まで 50m、病院の廊下をカニが歩いても誰も驚かない。明治時代には夏目漱石もこの海岸で海水浴を楽しんでおり、房州海水浴発祥の地とされている。1 年を通じて、防波堤や砂浜での釣り、船釣りも可能、仕事の前後に港でアジを狙うこともある。たまたま釣り針で自分を釣っちゃった方が救急外来を受診されることもある。

歴史的には、源頼朝が石橋山の合戦で敗れた後、三浦半島からこの地で兵を立て直し再興した。また日本近代捕鯨発祥地、見返り美人の菱川師宣生誕地でもあるようだ。

「美味しい店」を紹介。「住吉飯店」：鶏ソバ、肉ソバ、エビソバ、でか盛だが量だけで無く絶品の中華料理。「提灯屋干物店」：鱈の開きがおすすめ、ネットでお取り寄せも可能。保田漁港「ばんや」：漁協直営の食堂。観光客で賑わっている、自分の船で来ても停泊することが可能である。

「海」「山」自然豊かな環境で仕事をさせていただくことで、都会で疲れた心と体を週に 1 度のリフレッシュをさせてもらい感謝している。多くの人に訪れて欲しいと願い、PR をさせていただいた。

クールダウンエッセイを会員から募集します！

これまで、ニュース・レターのクールダウンエッセイは世話人が担当して参りましたが、会員の皆様からも募集いたしております。「趣味の話」「最近興味があること」「旅行記」「みんなに聞いてほしい話」「宣伝を兼ねて紹介したいこと」等々、皆様からの原稿を奮ってご応募ください。

応募要領：お名前、ご所属、テーマ、原稿（900 字程度）、執筆者の写真をメールで事務局（jimukyoku@da-kanwa.org）までお送りください。厳正な審査の上、掲載いたします。落選の場合はご連絡いたしません。ご応募お待ちしております！！

